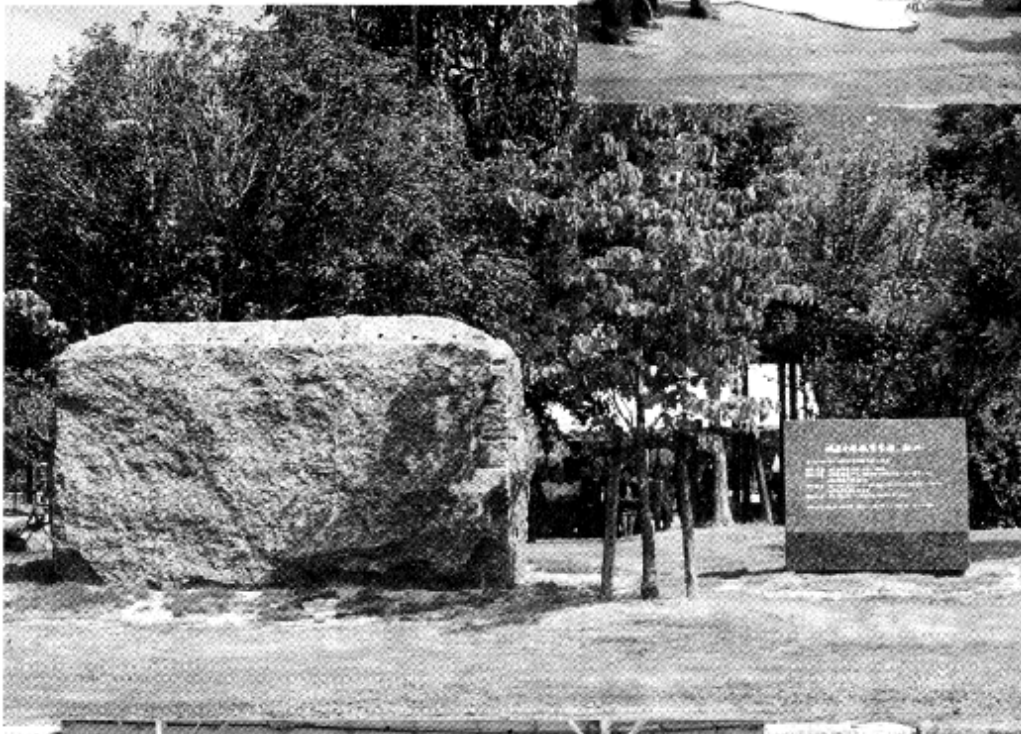


かつてここに

— 旧校舎跡地に記念碑建立 —
2004. 8. 28



除幕する関係者



同窓会記念碑二体

記念式典で挨拶する山口会長

「跡地碑」は告ぐ

同窓会長 山口 正和

教育学部130周年の記念

岐阜大学教育学部は、明治6年に大垣藩庁舎を師範研修学校として創立され、以来本年で130年を迎えることになりました。

その間、厚見郡今村、岐阜市加納に移転した後、昭和9年師範学校を、岐阜市長良に移転してまいりました。

この長良の地では、戦前・戦後の大きな社会のうねりの中で、教育の熱き血潮を滾らせた昭和58年までの50年間でありました。

この地での青春の1ページを過ごした「同窓のそれぞれの想いを記念碑として残しては」という切なる願いが、昭和24年度卒の同友の面々から同窓会へ提言され、今日に至ったものであります。

人集う岐阜長良公園に、歴史と文化の薫る「教育学部跡地碑」が滞りなく完工したことに、この上もない喜びを感じています。

清流長良川と金華山の望峰に向き合う「跡地碑」は、県下の教育の源流を培い、育んできたように、岐阜大学教育学部が益々発展し、文化の発祥の地となることを永遠に祈っているように思われます。

石に託して

教育に携わってきた一人として、教育の思いを記念碑に託して紹介したいと思えます。

教育の願いは、将来を見据え決して揺らぐことなく、ドッシリと構え、意図的・計画的ではありますが余り策に溺れることなく、自然体でありたいものです。

ですから記念碑には、ほとんど手を加えることなく、自然石のままでインド産のサファイヤ・ブラウン、26トンもの動かし難い石であったわけです。



サファイヤ・ブラウンは深成岩ですが、この花崗岩は大きな玉石として玄武岩より硬い石で誕生してくるそうです。

教育も国を背負うべき一人一人の子を、意志軒高な大きな玉として磨いてやらねばと想着てきました。

また、昭和9年～58年迄の長良の地での学部の沿革史を、辻太先生にその筆跡を残していただきました。その碑はバルチック・ブラウンと言って、フィンランド産の実に美しい結晶の見える石です。

教育も人格の完成を目指し、見事に結晶としてくれることを願って実践していくものです。

この石碑は石そのものに魅力を感じ、魅せられてその側に寄り添い、佇みたくなる思いがします。教育も教育者の専門性と人間性に必然的に魅了され寄り添いたくなるものでありたいと願っています。

このような願いが「記念碑に込められている」と言ったら、過言でありましようか。

終りになりましたが、会員の皆様の益々のご健勝を祈念し、本会の更なる発展と充実を願ってご挨拶といたします。

教育学部130周年記念「跡地碑」



サファイヤ・ブラウン

バルチック・ブラウン

法人組織としての教育学部の現状

教育学部長 古田 善伯

平成16年4月1日から岐阜大学は国立大学法人となり、それに伴って教育学部も法人組織の1部局として新しい体制の中で教員養成の目的を遂行することになりました。法人組織の構成と内容については昨年、佐々木嘉三・前学部長が解説されていますので、私の方からは現在教育学部が取り組んでいる内容について説明することにします。



まず、第一に取り上げたいことは、文部科学省の補助金制度である「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)と「現代的教育ニーズ支援プログラム」(現代GP)の2つのプログラムに本学部の取り組みプログラムが採択されたことです。教員養成大学・学部として特色GPと現代GPの2つのGPに採択されたのは岐阜大学教育学部が唯一であり、本学部の取り組みは全国的にも大いに注目されているところです。

特色GPには「地域・大学共生型教師教育システム」というテーマで申請し、全国113大学の中から7大学が選ばれ、その1つに岐阜大学教育学部のテーマが採択されました。この取り組みの内容は、岐阜大学のホームページ(<http://www.gifu-u.ac.jp/>)に示していますように①地域共生型・教員研修プログラム、②アウトリーチ型・遠隔教育プログラム、③ACTプラン・行動的連携による教員養成の3つで構成されています。次にこの3つの内容について概略を示すことにします。

① 地域共生型・教員研修プログラム

県教育委員会と連携して教員の6年目研修及び12年目研修(10年経験者研修)の一部を教育学部において実施している取り組みです。これらの取り組みについての詳細については本学部のホームページ(<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/>)に示していますのでご覧下さい。また、これらの取り組みは全国に先駆けて進めてきたものであり、多くの教育関係者から高い評価を受けています。

② アウトリーチ型・遠隔教育プログラム

双方向のテレビ会議システムによる現職教員等を対象とした夜間遠隔大学院及び免許法認定公開講座を地域のニーズに応じて展開している取り組みです。

夜間遠隔大学院では、地域の現職教員等を対象にサテライト教室を県内（高山会場、多治見会場、各務原会場、大垣会場、附属学校会場）と県外（熊本会場）に設置し、2専攻（学校教育専攻、カリキュラム開発専攻）の大学院の授業を展開しています。

③ ACTプラン・行動的連携による教員養成プログラム

岐阜市教育委員会等と連携して、1年生から4年生までの全学年において、学生が学校現場と大学とを往復しながら教師としての実践的力量を高めていくための実践教育（実践コア科目）を計画的に配置したカリキュラムを展開しています。具体的には1年生：教職トライアル（附属学校での観察実習）、2年生：教職リサーチ（近隣の学校での参加型実習）、3年生：従来の教育実習、4年生：教職インターンとして近隣の学校で主体的に学校活動に参画するということのように、実践コア科目を取り入れた教育を進めています。

以上の①～③の取り組みを進めてくることができた背景には、本学部と県教育委員会等との連携基盤を確実に構築してきたことによるものと考えています。

一方、現代GPには「教師のための遠隔大学院カリキュラムの開発」というテーマで申請し、108大学の中から15大学が選ばれ、その1つに本学部の取り組みが採択されました。この取り組みはこれから進めていく事業ですので、今後はIT関係者の先生方にはご協力いただくことになると思います。

本取り組みでは、現職教員が自宅や職場で学修することのできる「インターネット型」の遠隔大学院の実現を目指しています。具体的には、3ヶ年をかけ、次の2つの目標を実現するものです。

①働きながら学ぶ教師に特化したインターネット型大学院のためのカリキュラム（教育内容、カリキュラム運用、教育方法）を開発する。

②教育学研究科全専修（13専修）のインターネット型大学院を実現する。

この取り組みについても前述の教育学部ホームページに掲載していますのでご参照下さい。

最後に、現在中央教育審議会で「専門職大学院」と「教員の免許更新性」について審議されています。この内容は、本学部の将来に大きな影響を及ぼすことは間違いのないことだといえます。この情報については、別の機会に報告させて頂きたいと思っています。これからは、学部と同窓会がこれまで以上に連携・協力していくことが求められてきますので、一層のご援助、ご協力をお願いする次第です。

平成16年11月

平成16年度岐阜大学教育学部同窓会評議会記録

下記により平成16年度岐阜大学教育学部同窓会評議会が開催された。

1. 日 時 平成16年 5 月22日 13時30分から
2. 場 所 岐阜大学教育学部第一会議室
3. 出席者 評議員163名(内委任状112名)
4. 次 第
 - (1) 開会の言葉 副 会 長 野村 俊朗
 - (2) 会長挨拶 会 長 山口 正和
 - (3) 来賓紹介 会 長 山口 正和
 - (4) 来賓挨拶 教育学部長 古田 善伯 様
 - (5) 議長選出 (議長に澤島 昌彦氏を選出した)
 - (6) 協議
平成15年度活動報告
平成15年度決算報告、監査報告
平成16年度活動計画
平成16年度予算案
上記各項について審議し、これを承認した。
同窓会長推挙委員選出
規定により同窓会長推挙委員として
澤島 昌彦 松田 孝弘 大澤 肇 奥村 収 後藤 忠喜
の各氏を選出した。
 - (7) 閉会の言葉 副会長 中舎美津男

平成15年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 赤池 潔

第19回教育実践研究論文最終審査会を平成16年3月15日に開催し、県教育委員会をはじめ、学識経験者、大学及び小中学校校長会代表の先生方による厳正な審査を行った。その結果、最優秀賞には岐阜市立長良西小学校坂田俊広教諭の実践研究論文『自ら社会生活の意味を追究し続ける子』が選出された。また、優秀賞9点、優良賞40点、新人賞20点を決定した。いずれの論文も教育の今日的課題をふまえ、児童の実態に基づき見通しを持って指導を積み上げ、確かな成果を生み出したことが認められたものである。

なお、「入賞論文(優良賞以上50点)の概要」及び「新人賞(20点)の講評」については、『入賞論文集-第19集-』として刊行し、受賞者をはじめ各学校及び関係教育機関等に贈呈した。

1 今回の応募状況とその傾向

今回は、県内の小中学校教職員1,494名の方々から1,428点の応募があった。応募者数の割合は、県内当該教職員の約12%にあたる。

応募点数を校種別で見ると、小学校が約65%を占め、入賞論文数は小学校が全体の約77%を占めた。

実践研究領域では、教科が約65%を占め、中でも国語科が多かった。領域等では、総合学習を取り上げたものが比較的多かった。

2 今回の審査について

実践研究論文の審査は下記の観点を基準にして行った。

1. 教育の今日的課題を踏まえたものであるか。

◇校種別による応募点数と入賞者数

〈教科〉	小学校		中学校		
	応募点数	入賞点数	応募点数	入賞点数	
国語	131	14	59	4	
社会	59	5	50	1	
算数	120	7	81	0	
理科	40	2	63	1	
生活	52	3	55	3	
音楽	36	1	30	0	
図画工作	19	3	18	2	
家庭	9	0	技術家庭	33	0
体育	47	3	保健体育	39	2
計	513	38	計	428	13

〈領域〉

小学校

	応募点数	入賞点数
道徳	19	0
特別活動	21	2
総合学習	77	3
計	117	5

中学校

	応募点数	入賞点数
道徳	8	1
特別活動	30	0
総合学習	31	1
計	69	2

〈その他〉

小学校

	応募点数	入賞点数
学級経営	32	2
生徒指導	21	1
特殊教育	55	2
健康安全	35	4
管理経営	25	0
その他	37	2
計	205	11

中学校

	応募点数	入賞点数
学級経営	23	0
生徒指導	12	0
特殊教育	22	0
健康安全	3	1
管理経営	18	0
その他	18	0
計	96	1

2. 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られるか。
3. 論旨が明確であり、継続的・累積的であるか。
4. 児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
5. 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

さらに、観点それぞれについて評価項目をいくつか設定して選定作業が進められた。

郡・市及び教育振興事務所の審査を経た論文は、さすがに優れた作品揃いである。この優劣の付け難いと思われる作品も評価基準の明確化によって厳密な審査を可能にしている。その結果として、入賞作品の数が校種により偏りが生じたことはやむを得ないことと考える。大切なことは、「子どもが育つ」ことに焦点を当てた実証的な論文であるかどうかである。

3 教育実践研究助成事業の更なる発展を願って

本事業は、昭和60年に岐阜大学が現在地の柳戸に統合移転した際それを記念して同窓会が発足させたものである。爾来、19年に亘り毎年優れた実践論文を表彰することにより、県内教職員の教育力の向上に大いに貢献してきた。

本事業が関係諸機関の理解と協力を得て、「岐阜県教育界に、地道でかつ意欲的な教育活動が広がり、深まることを願う」という発足当時の目的は十分果たしていると確信したい。

今後、同窓会の使命の見直しとともに本事業のあり方についても再検討の時を迎えている。本事業が県内教職員の教育力向上に寄与し、その資質を鍛え磨く「教育道場」のような存在として光り輝くよう、更なる発展に努めたい。

教育職員を目指す皆さんへ

一人一人を大切にしたい

磯村未来(平成10年度国語教育卒)

今の勤務校に赴任して早くも3年がたとうとしています。その中で出会ったS男との交流を通して、私はこれからの教師としての生き方の基盤となる大切なことを教わりました。

昨年初めて学級担任となり、特殊学級を担当しました。S男は授業中に落ちて学習することができず、よく教室を抜け出していきました。また、何か気に入らないことがあると、暴力という形で人や物に当たることがありました。初めの頃私は、「ダメなことはダメ!」という強い姿勢でS男を叱り、やめさせようと思いました。しかし、何度かそうしたことを繰り返す中で、「S男は何を望んでいるのだろうか?」「どんな思いでそうするのだろうか?」と考えるようになりました。

そういう思いでS男と接したり話したりしているうちに、S男が人一倍「もっとよい自分になりたい」「もっとみんなと仲良くしたい」という気持ちを持っていることに気づきました。そこで、S男が少しでも授業に集中し、「やりきった」「がんばれた」という思いが持てるように、授業の内容や方法を見直してみました。また、暴力をふるってしまった時、そこにいたる経緯を一緒に一つ一つ振り返りながら、「なぜそうしてしまったか」「どうすると一番よかったか」と自分を見つめ直す時間を大切にしました。

そうする中で、少しずつではありますが、S男は落ち着いて学んだり活動したりできるようになっていきました。仲間に対しても、暴力をふるわないでがまんし、自分の気持ちを伝えられるようになりました。自分の気持ちを優先させることの多かったS男が、仲間のことを思いやる気持ちを多く見せるようになってきたのもこの頃です。

これ以後、私は、その子のもつ「よくなりたい」という願いに耳を傾けること、その願いをその子自身が達成できるように手助けをしていくことが、「その子を大切にすることではないか」と考えるようになりました。

今、私は通常学級の担任をしています。S男と出会って学んだ、本当の意味で「その子を大切にすること」を生かし、どんな時でもどの子に対しても、一人一人を大切にしたい気持ちを持って共に歩んでいきたいと思います。

「『できるようになったよ!』の笑顔」が見たくて…

金森香織 (平成10年度英語教育卒)

「先生の授業、楽しかったよ。俺もなかなか英語、できるようになったやろ。先生、ありがとう！」教職に就いて1年目の卒業式、いつも悪ぶっていたA男が照れくさそうに笑いながらそう言ってくれました。私はその時の感動を忘れることができず、6年目となる今も「『できるようになったよ!』の笑顔」を求めて、日々悪戦苦闘しています。

学級みんなでわいわい楽しめる英語の授業を創ろうと、夢と希望を膨らませ教壇に立った初日。待っていたのは、冷ややかな目と無反応の生徒たち…。つぶやきさえ許さない緊迫した空気が流れる中で、その学級を仕切っていたのがA男でした。新米の私への挑戦だったのか、授業中暴れ回ったり、がんばる仲間を冷やかしたり、些細なことで“キレ”、「こんなことやれるか!」と教科書を投げつけられたこともありました。彼にどんな態度をとられても、自分を表現するって楽しい、喜びや楽しさを分かち合える仲間がいるっていいと思わせたくて、彼にぶつかっていきました。少しでも興味をもってくれるような活動を考える、よさを即座に認め、みんなで拍手する場面を創る、仲間のつぶやきや発言には大きな声で反応し、学級全員で一人の仲間のために盛り上げる…等、生徒の目線に立ち、自分を表現すること、互いの思いを通わせること、そして自分たちで創り出す学習の楽しさを実感させようと日々挑戦し続けました。仲間と思いが通じ合えたり、仲間から賞賛されたりすると、どの生徒もうれしそうな顔をしました。自分たちで司会をしたり、反応し合ったりする学習活動では、どの生徒も生き生きしていました。A男も少しずつ心を開き、3学期にはノリノリで英語を発音し、みんなの手本を喜んでするようになりました。

A男に教えられたこと…それは反発してくる生徒もおとなしい生徒もがんばっている生徒も、どの生徒も「できるようになりたい」と願っているということ。そして「できるようになった!」を実感できた時、誰もがうれしそうな顔をします。その笑顔の積み重ねが自信となり、次への学ぶ意欲となり、そして自ら生きる力につながるのではないのでしょうか。A男との出会いから6年がたちますが、さまざまな生徒の笑顔が私の今の原動力であり、次への指針となっています。これからも、生徒と共に泣き笑いながら、彼らの笑顔を求めて、挑戦し続ける教師でありたいと思います。

学生の就職状況

総務部会長 岩田恵司

1 学部学生、大学院生の進路状況について

学部4年生の298名の就職等動向については、先ず、平成17年度教員採用試験受験者数は193名（実員）で内採用試験合格者数は72名、大学院進学者は26名である。教員志望の学生の内121名が現在臨採及び他の就職活動に取り組んでいる。教員志望以外の学生79名については就職内定者も多数であるが全体を把握するに至っていない。（表1参照）

表1 学生進路状況

講座等名	4年次学生数	教採受験数	教採合格数	大学院進学
国語教育	20	22	11	0
社会科教育	41	46	12	3
数学教育	17	13	6	4
理科教育	47	39	9	3
音楽教育	16	17	0	2
美術教育	11	6	4	2
保健体育	17	23	8	0
技術教育	13	7	0	2
家政教育	13	11	0	0
英語教育	17	15	4	1
学校教育	15	5	2	5
生涯教育	10	6	3	1
障害児教育	17	16	9	0
生涯教育課程	44	13	4	3
合計	298	239	72	26

教採受験数は延べ人数で示す

大学院修了予定者の平成17年度教員採用試験合格者数は13名である。

詳しくは同窓会ホームページをご覧ください。

各同窓会の活動

史 学 科

(事務局 柳津町立柳津小学校 堀内 潤一)

(1) 史明会総会

○期日 平成16年8月22日

○場所 岐阜会館

① 総 会

② 講 演 「壬申の乱の功臣 淳武微子」

講師：南宮大社 宇都宮精秀先生

③ 懇親会

社会科(地理)

(事務局 可児市立桜ヶ丘小学校 奥村 雅人)

(1) 第30回同窓会「濃飛の集い」……第36回生(代表 松尾 国雄)が担当

○期日 平成16年8月7日(土)

○会場 岐阜市北部

コミュニティセンター

① 総 会

・同窓会役員あいさつ

・実行委員あいさつ

・恩師のあいさつ

② 研修報告

「美濃加茂市の外国人児童生徒教育の現状」

美濃加茂市教育部学校教育課 鷓飼修巳先生



(2) その他

① 次回開催37回生代表あいさつ

② 機関誌「濃飛」について

(3) 中村製瓦見学

(4) 次回活動予定 平成17年8月6日(土)

第37回生(代表 奥村 雅人)担当

社会科(哲学)

(事務局 岐阜市立加納小学校 桑原 奈津子)

(1) 活動報告

① 哲学科同窓会「夏の集い」

開催日 平成16年8月21日(土) 午後3時～5時

会場 グランヴェール岐山

内容 講演 「フリーター急増から見る現代社会の構造的矛盾」
岐阜大学教育学部社会科教育講座教授 小林 月子 様
講演 「思考・教育そして人生」

昭和40年度卒業生 野田 邦男 様

② 定例代議員会

開催日 平成16年8月21日(土)

会場 グランヴェール岐山

内容 事業報告、会計報告、事業計画 等

(2) 「夏の集い」

毎年開催している「夏の集い」には、今年度、会員20名、大学より小澤先生、小林先生のご参加をいただき、22名が集まった。今回集まった会員は、昭和31年度卒業生から平成9年度卒業生まで。毎年幅広い年齢層からの参加がある。

講演「フリーター急増から見る現代社会の構造的矛盾」では、岐阜大学の小林先生が、豊富な資料をもとに、フリーターの増加と未婚化・晩婚化・少子化との関係を読み解かれ、現代社会のもつ問題点を改めて浮き彫りにしていかれた。私たちはこの問題にどう立ち向かっていくのか——。今一度問われた内容の濃い講演であった。

講演「思考・教育そして人生」では、38年間教育に携わっていらっしゃった野田邦男さん(昭和40年度卒業生)に、思考方法や教育観、そして人生論をお話していただいた。今回の講演を目当てに参加された同世代の会員の姿も多く見られ、この同窓会が卒業後も会員相互の関係をつなぐ貴重な場になっていることを再認識することができた。

数 学 科

(事務局 岐阜立長良東小学校 早川 剛)

(1) 会員名簿「わしょう」の改訂(7月・9月)

・本年度は名簿の見直しの年度にあたり、会員の移動にあたって会員名簿の改訂を行った。

- (2) 数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。(平成17年2月予定)
- (3) 運営委員会の開催(平成17年3月予定)
 - ・平成17年度 総会(5月開催予定)準備
 - ・会員に対して住所・勤務先等の葉書での確認を行う。

理科(物理)

(事務局 美濃加茂市立伊深小学校 鈴木 雅史)

- (1) 平成15年度同窓会員名簿を作成し、同年12月に全会員に配付した。
- (2) 平成16年度は、総会等は開催していないが、各学年で同窓会が開催され近況の交流がなされている。
- (3) 新名簿の整備を計画している。学年代表の方々には調査等でお世話になります。よろしくお願いします。

理科(化学)

(事務局 岐阜県立大垣養護学校 華井 章裕)

- (1) 総会：(隔年8月ごろ)
 - 平成16年8月8日(日) 開催
 - ・事業報告・会計報告・監査報告
 - ・規約改正・事業計画
 - ・役員改選

[会長：後藤正之(S41年卒)留任]

- ・講演

「地域における子供たちの体験活動」

講師 岐阜大学教育学部美術教育講座助教授 辻 泰秀 先生

- ・懇親会 出席27名

「同窓会報・かんきせん」第17号 7月1日発刊

- (2) 「岐阜かがく教育研究会」の活動

化学科に限らず、他の学科、他の大学出身者も共に研究活動をしている。

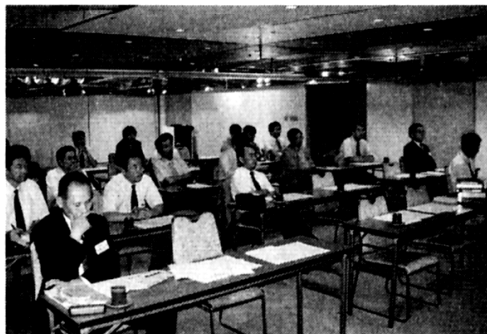
総会：平成14年12月27日(月)午後6時半

会場：岐阜グランパレホテル(予定)

研究発表会：年1回12月下旬(岐阜大学附属中学校の予定)

- (3) 「修士論文及び卒業論文発表会」及び「追い出しコンパ」への参加

毎年2月に開催される修士論文及び卒業論文発表会とその後開催される追い出しコンパに、OB10名ほどが参加し、実業界からの助言や学校現場か



らのアドバイスがなされ、在学生との交流が深められている。

理科(生物)

（事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 船戸 智）

- (1) 総会（隔年、次回17回目の総会は平成17年8月に予定）
同窓会員の研究実践の交流及び、親睦と最近の教育学部生物科の卒業研究報告会を兼ねて行っている。
- (2) 生物教育研究会（2ヶ月に1回、実践交流会は毎年12月の第2日曜日の予定）
同窓会員の自主的な自然観察及び、実践交流を行っている。
- (3) 機関紙「岐阜の生物」
毎年12月に発刊、全会員に郵送している。（本年度は第17号を発刊の予定）

理科(地学)

（事務局 岐阜県博物館 古田靖志）

- (1) 事務局では会員住所や所属等を調査し、同窓会名簿の修正を行った。
- (2) 平成16年度は同窓会や総会等は開催しなかったが、地学教室や卒業生有志により5月22日に佐々木嘉三先生の退官祝賀会が開催され、多数の同窓会員が参加した。また、その折りに、地学教室のご厚意により地学科卒業生名簿が配布された。その他にも、有志が集まって地学教育に関する研究会や親睦会などが行われた。

美術科

（事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 後藤弘行）

- (1) 昨年度、総会を開催し、新組織・規約での同窓会活動の年であった。同窓会を中心とする実質的な会等は開催することはなかったが、学年ごとや有志によるグループ展や研究会、親睦会などを行い、近況の交流を重ねている。
- (2) 事務局では、2年後の総会に向けて、会員住所等を調査し、進行中である同窓会名簿の作成やホームページ作成を行っている。

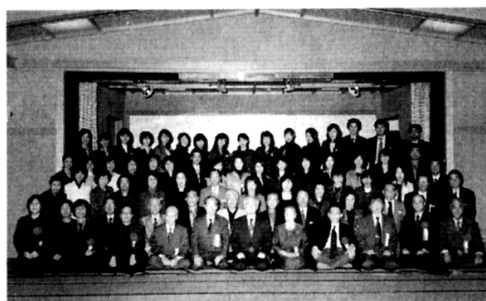
音楽学科

（事務局 同窓会 会長 三羽幸夫）

- (1) 会員数 986名（生存者950名／物故者36名）
名誉会員数 21名（生存者 15名／物故者 6名）

(2) 第13回総会・親睦会(3年ごとに開催)

- ① 開催日 平成16年11月14日(日)
- ② 会場 長良川観光ホテル
「石金」
- ③ 総会 (11:00~11:45)
- ④ 懇親会 (12:00~14:30)



・名誉会長あいさつ

(研究室代表/朝田 健 教授) など。

(3) 御退官名誉会員による講話

- ① 開催日 平成16年8月29日(日)
- ② 会場 北部コミュニティーセンター
- ③ 講師 久野 壽彦 前教授

(4) 機関紙「間」34号の発行

(5) 会員名簿(第13訂)の改訂について

(全会員への配布は、市町村合併のため平成17年度に延期)

(6) 卒業演奏会出演者への激励 平成17年2月11日(日)

体 育 科

(事務局 岐阜市立明郷中学校 石子 裕朗)

(1) 総会

- 期日 平成16年6月12日(土) (77名出席)
- 場所 ホテル「グランヴェール岐山」
- ① 新入会員(18名)と物故者(特別会員1名、一般会員1名)の報告
- ② 新役員の推薦と承認
- ③ 15年度事業報告、会計報告及び会計監査報告の承認
- ④ 16年度事業計画、予算の承認

(2) 第5回体育学科同窓会会員名簿を16年3月に発刊した。この時点で会員数1,074名であった。

(3) 役員会及び常任理事会を15年11月~6月の間に6回開き、下記について検討及び実施した。

- ① 在学生優秀選手の選出の検討及び表彰
- ② 同窓会入会式の検討及び実施
- ③ 「同窓会総会」及び「還暦祝いの会、懇親会」の計画及び開催

技 職 科

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 吉田 竹虎)

(1) 総会(3年ごと)

今回は、平成17年10月の開催を予定している。総会は各地区順に行われているが、今回は『岐阜地区』での開催を予定。

(2) 役員会

総会有一些年の6月に役員会を開催している。顧問、会長、副会長、理事(地区代表)、学年幹事、庶務幹事、事務局等の役員が集まり、活動の方向や、総会の持ち方などについて検討する。

(3) 同窓会名簿

総会の年に、全会員の自宅に郵送している。新規会員の追加、改定などの作業を学年幹事・庶務幹事が中心になり行っている。名簿をもとに、同学年ごとに同窓会を行い、近況の交流を重ねている学年も多い。

(4) 第41回東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会岐阜大会の報告

平成16年10月21・22日に、高山市・飛騨市・国府町を会場に、7年に1度の東海・北陸大会岐阜大会が行われた。全体会および、授業公開・授業研究会・研究協議会を行い、県内から250名以上、県外から400名以上の参加があった。台風23号通過にともなう、大変な状況下の中であったが、無事に、盛況な会を行うことができた。同窓会の方々にも、様々な立場で大会を支えていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

家 政 学 科

(事務局 本巣市立真正中学校 谷村 三奈)

(1) 平成16年度の活動

① 総会および同窓会(開催周期5年毎)の開催

期 日：平成16年8月8日(日)11:00~14:00

場 所：グランヴェール岐山

内 容：恩師の先生2名をお招きし、120名あまりの参加の中、楽しい一時を過ごすことができました。懐かしい写真や映像を交えた会は、参加者に好評でした。

② 平成16年度版会員名簿を作成し、全会員に配布

(2) 今後の活動

① 5年毎に総会および同窓会の開催

② 会員名簿の作成

毎年会員名簿を作成し、年次代表者に配布

総会および同窓会を開催する年は、会員名簿を全会員に配布

英語英文学科

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 山下 敦子)

○総会の報告

- ・平成16年1月31日(土)10時～15時 岐阜会館
- ・内容 ①総会(会務報告、会計報告、役員改選、名簿作成報告等)
②講演会「小学校における英語教育」 岐阜大学 松川 禮子教授
③懇親会

※本会初めての100名を越す参加者で、盛況であった。

※松川先生のご講演が大好評であった。

※新役員 会長 中舎美津男(8期)

副会長 江崎 力(9期) ○中村 美幸(34期)

書記 高橋 克(24期) 深尾 雅人(31期)

○山下 敦子(34期)

会計 菱田 秀樹(24期) ○高田 大嗣(26期)

会計監査 ○伊藤 昭彦(15期) ○勝野 正(19期)

が選任された。

(○印は新任)

教育学科

(事務局 岐阜大学教育学部 宮本 正一)

(1) 総会

- ・開催日 平成16年11月6日(土)
- ・場所 グランベール岐山
- ・記念講演『教育改革とこれからの岐阜大学』
講師 佐々木 嘉三先生(岐阜大学理事、前教育学部長)
演題『過剰適応に関する研究』
講師 小野 由衣子氏(岐阜大学大学院教育学研究科学校教育専攻)

○以下にホームページを開設しました。

<http://www.gifu-u.ac.jp/~gupsycho/miyamoto/dousoukai.htm>

— ・ 編集後記 ・ —

☆ 同窓会報 第10号のお届け

国立大学法人岐阜大学が発足して9ヶ月が経過。それぞれの国立大学法人は独立した組織となり、学長を中心とした経営面・教育研究面の改革が進められている。

私たち同窓会にも改革が迫られている。正直なところまだわからないことの方が多いが、はっきりしていることは、意識改革が必要であるということ。

この会報も、新しいキャンパス像への想いを込めて、同窓会という立場からバックアップする機能と使命を果たしていかなければならないと思っている。

第10号という節目でもあり、チョッピリ新しい会報を目指してお届けできるのは嬉しい限りである。

☆ 旧校舎跡地に記念碑

16. 8. 28 岐阜市長良公園に記念碑を建立。完成式典が行われた。記念碑は花こう岩の二体。「教育は揺るぐことなく動かしがたいもの」という願いが込められた縦1.7m、横3m、奥行き1.7m（重量、26トン）の石碑。もう一体は長良での学部の沿革が刻まれたもの。

長良公園を訪れた私たちが共通して語れる人生のトピックスの一つである。ぜひ一度記念碑をみていただき、ありし日を思い出したいものである。

☆ 同窓会ホームページへアクセスを

「岐阜大学教育学部同窓会」のホームページが開設された。（次ページに紹介）かねてより、「岐阜大学」のホームページは開設されていて、受験生たちには大いに活用されている。

同窓会のホームページはまだスタートしたばかりで、内容は同窓会規約、同窓会役員、同窓会の活動、各教科・講座、最近の話題といったところであるがこれからはこのホームページが充実していくよう期待されている。

この会報と重複することもあるが、詳細はぜひホームページへアクセスを。

<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/dousoukai/index.html> (S)

第10号 平成16年12月発行

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

発行者 山口 正和

岐阜大学教育学部内

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

TEL・FAX 058-293-2344